



木育こどもの家

「木育」を最前面に打ち出し、次世代を担う子どもたちを育む保育園。
木質空間で育まれた子どもたちがつくる未来の形は。



問合せ先 <https://mokuikukodomo.jp/>
TEL.011-596-7665



木育を始めたきっかけ

昨今、水資源が豊かな北海道では、外国資本が森林を買収するという問題の一方で、世界的に「SDGs」の取組も進んでおります。こうした課題は行政だけではなかなか取組が進みません。我々民間企業や道民一人ひとりの力が大切だと思っております。木の地産地消も重要です。当園でも微々たる量ではありますが、道産材の木を使う、そういった私たちの小さな積み重ねが北海道の森を守り、貴重な水資源を守る活動にも繋がっていくのではないかと思います。また、子どもたちが乳幼児期から身近に木に触れ感じる「木育」を通じて、人や自然に対しても、思いやりや優しさを持てる「豊かな心」を育むことができると考えます。

株式会社よつ葉
代表取締役
穴田 貴洋さん



木がふんだんに使われている園舎

床、壁、天井、園舎の隅々まで天然の無垢材を使っています。内装の木質化を進めるにあたって、生きた木を使うというのは難しく、木の材質によっても異なるものなので、神社仏閣等、木に精通した宮大工さんに施工をお

願いしました。また、壁には和紙材も使用しています。和紙材を使うことにより、静電気が起きにくい上に木とあわせて、子どもたちの健康や保育に良い影響を与えるといったところもこだわりのひとつです。



木質化によって

大人もストレスの緩和、集中力の増加、子どもたちにとっては教育的効果もあるといわれています。今、様々な小中学校の校舎が木質化されているのも、そうしたメリットが強調されていると思います。同時に、木の温もりや香りは心理面にもリラックス効果を与えているといわれており、子どもたちだけではなく保育士にもリラックスしたより良い保育環境を提供できると認識しています。

木にはコンクリートの約12倍の断熱性があるとされており、外気温の影響も受けにくく、冬場でも園舎には結露が発生しません。木の壁に霧吹きをかけると空気の乾燥を緩和させると同時に木の匂いも一緒に出てくるといった、木ならではの効果もあります。最近は住環境も恵まれており、エアコンや暖房で、子どもたちが汗をかかなかつたり、体温調節が難しくなったりする問題もあるようですが、暑いときは汗をかく、冬場もほどよく暖かく、という保育環境の充実が図れるのは木質化ならではのメリットだと思っています。



園児も職員も裸足、いわゆる「はだし保育」を実践しています。無垢の床材には夏は気持ちよく冬も暖かいだけでなく、体温調節にも通じる、運動能力の向上や健康でたくましい体を作っていくという狙いがあります。



当園は保育の生活そのものが木育で、園舎の木質化というハード面だけではなく、玩具や絵本も木育を中心に考えて選んでいます。園外活動では、子どもたちの五感に働きかけることを大切に、四季を通じて365日の保育の中で特に木育のカリキュラムを作って展開しています。

当園では、保育の専門知識に加え、「木育マスター」や「木育インストラクター」「おもちゃインストラクター」といった木育に特化した専門資格の取得にも力を入れています。木育に精通した保育士を育成しています。



子供の心を豊かにする「木育」のメリットは、「五感と響きあう感性」、「ものを大切にすること」、「想像力や工夫する力」、「根気、やる気」、「協力する心、気づかう心」などが育まれ、子供の健全な発育にも大きく貢献するといわれています。

これらの取組が、子どもたちの「生きる力」の基礎を培うとともに、私たちの大切な北海道の森や水、生活基盤を守り、育て、将来に引き継いでくれる人材を育成することにも繋がると信じています。